

東京湾再生官民連携フォーラム

③ 東京湾での海水浴復活方策検討

東京湾での海水浴復活方策検討PT長 関口雄三

(認定NPO法人 ふるさと東京を考える実行委員会 理事長)

約50年ほど前までは、東京湾奥にも沢山の海水浴場があり、子供たちを始め、多くの人が海水浴を楽しんでいました。ところが高度経済成長

期、東京湾奥では大規模な埋立、海洋汚染、漁業権の放棄などが相次ぎ、1960年代には海水浴場は全滅状態となりました。

その後、工場排水の規制や下水処理場の整備、さらには人工海浜の整備も行われるようになり、1976年には千葉県市原市で人工海浜である「いなげの浜」に海水浴場が開設されましたが、東京

都区内など他の地域では、人工海浜の整備は行われなかったものの、遊泳禁止の状態が続いていました。

これに危機感を持った認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会は、2001年に「ふるさと東京を考える環境フォーラム」を開催し、海水浴の復活を目指して10万人署名活動を開始しました。そして、2003年になって、「東京湾再生推進会議」が発足し、「東京湾再生のための行動計画(第一期)」が策定されると、国土交通省

港湾局からの依頼により発起人代表となり、東京湾に關係する56団体が参加した「東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム」を開催し、「次世代の子供たちに親しまれる東京湾にするため行動すること」を宣言しました。

そして2008年には、「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を発表、シンポジウム、里海まつり、マリンガーデン体験等の開催を経て、2012年には東京都内の「葛西海浜公園」において、約50年ぶりに海水浴を復活させ(2日間)、その後、毎年、遊泳ゾーンの面積や海水浴実施日

数等を拡大して社会実験を実施した結果、本年度から恒久的な海水浴(38日間)を復活させました。このような動きは、お台場にも波及し、2013年から毎年2日間の海水浴が実施されています。

「東京湾での海水浴復活方策検討プロジェクトチーム」は、「快適に水遊びができ、親しみやすい」という東京湾再生推進会議の第2期行動計画の目標を実現させる為、認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会のほか、お台場で海水浴を主催している港区、東京都の海浜公園の管理者である東京都港湾局、その他海水浴に関心があり、かつ地元を愛するメンバーが集まり、東京湾奥の他の地域でも海水浴が復活できないか検討

し、政策提案を行っていきたくしています。2020年夏には東京でオリンピック・パラリンピックが開催され、世界中から多くの方が訪れます。東京での海水浴の復活は、市民が「海」を取り戻した第一歩として、来訪者への強いメッセージとなることでしよう。

東京湾での海水浴復活の方策検討PT

東京湾で海水浴実験！
葛西海浜公園

○東京湾で海水浴の可能性検討や実証実験にチャレンジしています。

○海水浴社会実験・葛西海浜公園
西なぎさにおいて、
2015年も
海水浴体験
イベントを
実施しました。



その後、工場排水の規制や下水処理場の整備、さらには人工海浜の整備も行われるようになり、1976年には千葉県市原市で人工海浜である「いなげの浜」に海水浴場が開設されましたが、東京

都区内など他の地域では、人工海浜の整備は行われなかったものの、遊泳禁止の状態が続いていました。

これに危機感を持った認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会は、2001年に「ふるさと東京を考える環境フォーラム」を開催し、海水浴の復活を目指して10万人署名活動を開始しました。そして、2003年になって、「東京湾再生推進会議」が発足し、「東京湾再生のための行動計画(第一期)」が策定されると、国土交通省

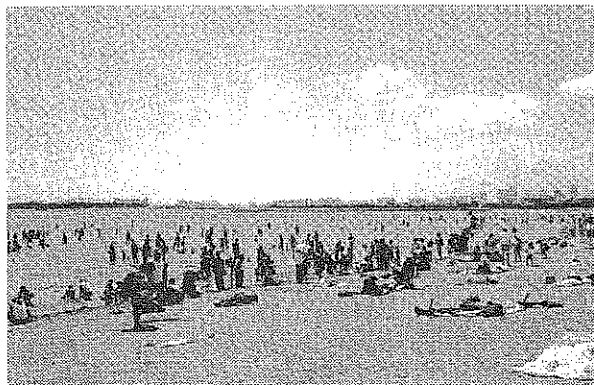
港湾局からの依頼により発起人代表となり、東京湾に關係する56団体が参加した「東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム」を開催し、「次世代の子供たちに親しまれる東京湾にするため行動すること」を宣言しました。

そして2008年には、「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を発表、シンポジウム、里海まつり、マリンガーデン体験等の開催を経て、2012年には東京都内の「葛西海浜公園」において、約50年ぶりに海水浴を復活させ(2日間)、その後、毎年、遊泳ゾーンの面積や海水浴実施日

数等を拡大して社会実験を実施した結果、本年度から恒久的な海水浴(38日間)を復活させました。このような動きは、お台場にも波及し、2013年から毎年2日間の海水浴が実施されています。



葛西海浜公園での海水浴復活(テープカット)



葛西海浜公園での海水浴の風景